
幼馴染に振り回されて～中崎 樹の場合～ まだ中学生だった頃・・・。

雷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼馴染に振り回されて〜中崎 樹の場合〜 まだ中学生だった頃・・・。

【Nコード】

N8700Z

【作者名】

雷

【あらすじ】

奈美と樹は幼馴染であった。ある日樹の両親が交通事故でなくなつてから奈美は決心したことがあった。それはこれから先絶対に樹を悲しませない。悲しませてその分笑わせてやればいい。悲しみを半分こにしようと……。そしてそれから8年後2人は誰にもばれてはいけない同棲をすることになる。そして二人の気持ちに変化が……。

幼馴染に振り回されて&振り回されての中崎樹と結城奈美の2人が
中学生だった頃のお話です。

非日常へと変化現る・・・。

（8年前）

樹「パパ、ママ何処行っちゃったの……。帰って来てよ……。
行かないでよ僕を置いていかないで……。パパ、ママ帰って来て・
。。。」

奈「樹悲しいのは分かるけどね樹のパパとねママはね死んじゃった
の!？」

樹「そんなことないよ……。だってパパとママは帰って来てくれ
るっておじちゃんたちは言ったもん!!!」

奈「生きてる人があんなにつめたくてあんなにあんなに……。」「
樹「ママとパパは生きてるもん……。だから僕は待つんだ待つん
だ……。」

奈「いい!!!!!!樹のパパとママは死んじゃったの!!!!!!
天国に言っちゃったの!!!!!!グスンうわああああああん」

樹「グスツどうして奈美ちゃんまで泣くの……。?」

奈「悲しい……から泣いてるの……。」

樹「どうつして?樹のっパパとママなの?」

奈「それはっ自分のっママとパパが死んだ位悲しいから……。だ
から樹のばだからとか関係ないんだよ。樹が悲しいなら私も悲し
い樹が楽しいなら私も楽しい……。だから悲しみもつらさも半分
こにしょ?それが樹のパパとママのためにもなるから……。」

樹「奈美ちゃんありがとね……。奈美ちゃんのおかげで元気が出
たよ……。」

奈「良かった……。」

（8年後）

プルルル プルルル

樹「もしもし中崎です」

奈「いつちゃん・・・。あんね助けて」

樹「えっどうしたさ!？」

奈「今ねいつちゃんの家の近くまで来てるの今から行ってもいい？」

樹「いいよ。奈美を今から迎えに行くさ!!!」

奈「いいよそこまで一人で行くから・・・。じゃあね。」

樹「まっ・・・プウプウ」

奈美ちゃん何て泣きそうな声してたんだろさ・・・。

なんかあったのかな・・・。

このときの樹はこれから先のことを考えていなかった・・・。続く
!!!!!!

俺らの災難

ピンポン

樹「はい」

奈「入っていい？」

樹「入っていいよ」

奈「ごめんね夜遅くに……。」「

……。確かに夜遅くさな……。

樹「別いいさ。早く上がるさ」

奈「うんありがと……。」

樹「適当に座っててコーヒー入れるからさ」

奈「いいよ気にしないで」

樹「ええっせつかく新しいの買ってきたのにさ……。」

奈「そつか。じゃあお願いしようかな」

ううん奈美どうしたんさかなあ？

こんな夜遅くにあんな量の荷物持って……。

樹「はいできたよお。ミルクと砂糖は自分で入れて」

奈「うん。それよりさ樹は聞きたくないわけ？」

樹「何をさ？」

奈「その……。たくさん荷物持って夜遅くやってきたことに……。
」

樹「確かに聞きたいことはあるさ……。でも言いたくないなら言わなくていいさ。」

奈「そつか……。優しいんだね。」

樹「優しくないよ／＼」

奈「でもいつちゃんには言つところかな理由を……。」

樹「何があつたんさ？」

奈「1時間前ね……。」

（1時間前）

奈「お父さん私これからいつちゃんと住むから！！！！」

父「なついつちゃんって誰だ！？」

奈「いつちゃん忘れたの！？中崎樹くんだよ！！！！」

父「だめだ。お父さんは許さないぞ！！そんな健全な女子中学生とけがわらしい男と一緒にすませるなんて！！」

奈「いつちゃんはけがわらしくない！！！！いつちゃんは私の大切な人なの！！分かってよ！！！！その辺の男と一緒にしないで！！！！お父さんの方がよっぽどけがわらしいんだから！！！！ちゃんとお母さんの許可は得てるからじゃあね！！！！」

父「お父さんがけがわらしいだって！？」

奈「ええそう言ったのよ！？聞こえなかったこの獣が！！！！！！父「よお言つたな！！！！もうお父さんは知らないからないつちゃんのもとだか誰の元だか勝手にせえや！！！！」

奈「好きにさせてもらうわじゃあね！！！！もう一生会いたくない！！！！！！」

つてなつたの……。お父さん酷くない？」

ええと奈美さん……。それはさすがに君が悪いよ……。

樹「待つさ！？何で俺と住むこと決定されてるんさ！？」

奈「えっもしかして小さいころの約束忘れたの！？」

樹「えっ楽しさも悲しみも半分こにしようってやつ？」

奈「その後！！！！10年たったら一緒にすもうって言ったじゃん！！！！早いけどいいかなって思ってた！！！！」

樹「いや言っていないさ！！！！」

奈「言つたよね？」

涙目です

樹「うう／＼言ったさ／＼」

奈「だからその約束果たすためにきました！！！！」

樹「まじで！！！！？？？？とりあえず家に電話するさ？」

奈「それはダメ」

樹「何でさ？」

奈「オトウサンガキレテルカラ。イッチャンコロサレタラワタシイキテイケナイ。」

樹「読みにくいさ！？じゃなかった。聞きにくいさ！！！！」

奈「でもでもいつちゃんころされちゃうよ？いいの？」

樹「それは嫌だけどさ……。許可はとつとこ？」

奈「うん分かった……。」「

樹「じゃあ電話するね。」

奈「うん」

プルルル プルルル プルルル

「はいもしもし結城です」

奈「お母さん？」

母「どうしたの！？なつちゃん？」

奈「あのねお父さんにかわってくれない？」

母「いいけど……。覚悟はできてる？」

奈「うん」

母「じゃ分かった。おとうさん！！！！！！」

父「何よ！？」

母「奈美から電話！！！！」

父「奈美だいやそれは！？」

母「私たちの娘よ！！！！！」

父「そんな奴知らん！！！！！」

母「あぁっ！？何が知らんや！！！！あんたのこどもでしょ！！！！！」

！さっさこっちこいや！！！！！」

父「しょうがねえなあ。はい換かわりましたあ」

奈「お父さん。」

父「何よ!？」

奈「今ねいつちゃんの家についた。これからいつちゃんと暮らすか
らしい?」

父「ダメや!?!?!さっさ帰ってこい!?!?!」

奈「何でダメなの!？」

父「ダメなもんはダメや!?!?!そのいつちゃんとやらとかわれ!
!?!?!」

奈「分かった今変わるね・・・。」

樹「もしも。」

父「お前が中崎樹か!?!?!」

樹「はいそうですけど?」

父「俺らの奈美に何さらしとんじゃあ!?!?!ああん?」

樹「・・・。」

父「何か言ったらどうじゃあい!？」

樹「奈美ちよつとあっちの部屋に行つてて」

奈「いいけど・・・。」

父「うちの娘を下の名前で呼ぶなや!?!?!?!?!」

樹「何故下の名前で呼んだらだめなんですか!？」

父「俺の娘だからだ!?!?!」

樹「あんたの娘だからですか!?!じゃああなたも奈美のことは舌の
名前で呼ばないでください?」

父「何でや!？」

樹「俺の大事な親友で幼馴染で大事な人だからです!?!?!」

父「よう言つたなあ!?!?!今からそこいくから待つとけ!?!?!
プツ」

・・・

言っちゃったよ・・・俺・・・

奈「どうだった?」

樹「今から来るって・・・。」

俺らの戦い

ふう……。

緊張する……。

奈美のお母さんにはよく会っけどお父さんはあったことがないからな。

樹「奈美大丈夫？」

奈「うん……。わたしが帰ればいっちゃんに迷惑かけないですむんだよね……。」

樹「迷惑とか言うなよ……。奈美が傷ついてんなら俺も傷つくさ……。俺らはそういう仲だろ？俺はいつまでたっても奈美の味方さ。だから奈美がいつしよに暮らしたいって考えたらおれもいつしよに暮らしたいって考える……。」

奈「ありがといっちゃん……。」

ピンポンピンポンピンポン！……！！……！！

奈「来たね……。私が出てくるね……。」

樹「俺も行くさ。」

奈「うん……。わかった。」

ガチャ！！

樹「どうぞあがって下さい」

父「あがらんでええわ！！！！奈美連れて帰るからな！！！！」

奈「待つ……」

樹「待つて下さい！奈美は俺とすみませす。」

父「何言うとんのやあ！！！！」

樹「ですから奈美は俺と住みます。ねっ奈美？」

奈「うん。お父さん分かったら帰って！！！！」

父「ふざけんなやあ！！！！」

バチッ！！！！！！

どさっ！

奈「いっちゃん大丈夫！！??」

樹「だ・・・大丈夫」

奈「ちよつとお父さん！！いっちゃんに何すんの！！！！！！」

父「たたいただけやろ？そいつがことを大きくしただけや！奈美帰るぞ」

奈「ちよつお父さん！！！手離してよ！！！！嫌だ帰らない帰らないよ・・・。」

父「もう茶番は終わりや！！！！」

奈「いっちゃんいっちゃん！！！！」

プチンッ！！！！

樹「ああん！？何やお前は！！！！さっきから聞いてたら娘の話くらい聞けやカスが！！！！」

父「ああ？今何ちゆうたか？」

樹「カス言つたんや！！！！」

父「よう言つたな！！！！」

奈「もう二人ともお願いだからやめて！！！！いっちゃんいっちゃん！！！！！！」

奈美が・・・泣いてる・・・

俺のせい？

この目の前にいるこいつのせい？

樹「わかつたよ・・・なみ・・・」

奈「えっ何どうしたの！？いっちゃん!？」

父「口ほどもないガキやな・・・。」

・・・
・・・
・・・
・・・
・・・

そこで俺の意識はなくなった・・・。

気付いたら病院のベッドの上で横には奈美が座りながら寝ていた・・・

。。

樹「奈美・・・ごめんな・・・。守ってやれなくて・・・。気付いてあげられなくて・・・。」

奈「うん・・・。いつちゃん？いつちゃん！！！！！」

樹「痛い痛いさ！！！！そんな抱きつくな！！！！！」

奈「良かった良かった良かった・・・。」

樹「わかったから泣くな。なっ？」

奈「うん。」

樹「それよりあの後どうなったの？」

奈「お父さんも反省して謝罪の代わりに一緒に住んでやれって言うてた・・・。」

樹「そっか・・・。もう夜だから奈美は家に帰りな。」

奈「家って・・・。どこに・・・。」

樹「そんなの決まってるだろ”俺らの家”だ・・・。」

奈「わたしたちの？」

樹「そう帰ったら笑顔で迎えてくれよ・・・。」

奈「うん分かった！！！！んじゃあ明日には帰って来てね」

樹「うん・・・。また明日」

奈「明日ね」

樹と奈美の戦いは幕を閉じた。

ように思えたが戦いは幕を開き始めたばかりだった。

その話はまた後ほど・・・。

俺らの戦い（後書き）

はい奈美と樹の波乱の戦い？はこれにて終了です。

これから奈美と樹はどうなるのか・・・。

これからも幼馴染に振り回されてをよろしくお願いします。

自己紹介

なかさき いつき
中崎 樹

この話の主人公。

3話目から幼馴染の奈美と同棲している。

好きな子は結城奈美である。

でも告白はまだしてない・・・。

本人曰くまだしたくないとのことだ。

両親は幼いころに他界していて今は伯父の資金により一人暮らし？
をしている・・・。

龍と同じくらいモテている。

1年3組に在籍しており出席番号は14番。

誕生日は2月9日。

語尾にさがつくのが特徴であるwww

ゆづき なみ
結城 奈美

主人公の親友？であり幼馴染である。

3話目から樹と同棲している。

実は樹のことが好きであり樹の好きな人を詮索中・・・。

里奈とは席が近いめかすぐ仲良くなった・・・。

この話のヒロインである・・・。

両親とは一緒に暮らしていたがケンカして樹の家に逃げた・・・。
いつコンのため他の男子には目がいかないのが盲点である・・・。

1年3組に在籍しており出席番号は56番

誕生日は7月15日

なかさき りゅう
中崎 龍

この話の主人工樹の親友であり幼馴染。

10年前結城里奈とある約束をしている。

趣味は運動をすること両親とは入学式のあとから別居している。

両親は健在、女子に以外にモテている・・・。

1年3組に在籍しており出席番号は15番。

誕生日は4月10日入学式の二日後である・・・。

結城^{ゆづき} 里奈^{りな}

この話のヒロインの友達。

10年前の約束をはたすため中崎龍のもとへと帰ってきた・・・。

両親とはケンカ中しかし毎月大量のお金を送られてくる・・・。

龍コンのため他の男子にはめがいかないところが盲点である・・・。

1年3組に在籍しており出席番号は57番

誕生日は12月7日

退院

やったあ今日退院だあ!!!!!!
って1日しかいなかったけどさ・・・。
でも名残惜しいなあ。

樹「お世話になりましたさ。」

受付の人「お大事に」

はあ今から晩飯買い行つて家に帰らないとさ・・・。
ぶるるる　ぶるるる　ぶるるる

樹「もしもし」

奈「あついちゃん!？」

樹「そうだけどさ。どうしたのさ奈美？」

奈「あんね　×ストアに来て!!!!!!」
？

樹「うん分かったさ・・・。」

奈「んじゃあそれだけバイバイ」

樹「んじゃあね。」

ううんどうしたんだろうさ？

あつそういえば今日から一緒に住むさ!!!!!!

ああなんかきんちようしてきたさ／＼／
多分今顔赤いさね!!!!!!

ううん早く会いたいし走ろうさ!!!!!!

（5分後）

×すとあにやつと着いたさ!!!!!!

はあ緊張してきたさ・・・。

あつ奈美・・・。

あれ？

何で男というんさ・・・。

奈美は俺のこと好きじゃなかったのさ？

俺は奈美が好きなのにさ・・・。

ナミハアソビダッタノ？

ナンデコンナニムネガイタイノサ

俺の中で何かが音を立てて崩れた。

そこから気付いたら奈美のいることは逆方向のところに走ってた・・。

ナミハオレノコトアソビダトオモ

ツテタ

オレガヒトリデハシャイデタダケ

ヒトリヨガリダッタノカ

ああそうだったのか・・・。

アレナニコノホホニナガレルアツ

イエキタイ

オレナイテルノ

泣かないってきめたのにさ・・・。

父さん母さん俺どうすればいいんさ？

なあ奈美俺どうすればいいんさ？

退院（後書き）

はいいいとこで終わりです。

ここから先も2人は離れてしまいます・・・。

2人の戦いはまだまだ始まったばかりです。

なので2人が幸せになれるように応援よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8700z/>

幼馴染に振り回されて～中崎 樹の場合～ まだ中学生だった頃・・・。

2012年1月14日16時54分発行